
ボンバーラーメン

朱雀@あかすずめ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ボンバーラーメン

【Nコード】

N8187A

【作者名】

朱雀@あかすずめ

【あらすじ】

チャットで知り合った気の合う女性は想像からあまりにかけ離れた人だった…。完全型破りコメディ。大手サイト、壺モバイルにて投稿済みです。

（前書き）

警告！この小説は型破りコメディです。コメディを読み慣れてない方は表現に対し嫌悪感を抱く可能性があります。

公園の時計は正午を示した。ついに待ち合わせの時間になったのだ。二か月前、偶然チャットで知り合つて意気投合した女性と今日初めて会う事になっている。

俺は期待を隠せずに、ちらちらと時計を見てみると、遠くの方から鮮やかな服を着た、いわゆる『いまどきの女子』といった感じの人が近付いて来ることに気付いた。

…かわいい……。

距離が縮まり、顔や姿がはっきりしてくるにつれ、俺の顔がにやけてくる。

―いかん。自分が変態に見える。
なんとか顔を戻す頃には、彼女は気軽に声をかけられる位置に入つて来ていた。

とりあえず何か言わなければ…

俺

「あの…」

女

「ボンズール」

――！？

にこやかにそう言つて来た彼女に俺は面食らつた。

ボンズール…ボンジュール…フランス人か！？

いやいや…どう見ても日本人…もしかしたら気軽さを強調してるのかも知れない。ならば俺も気軽に答えないと失礼なのかも…よし…

俺

「ボンジュール」

女

「うわっ…何アンタ…きもっ…」

—……どういふことやねん…

女

「ふあゝあ」

—いきなりあくびかよ。あくびちゃんかよ。

女

「ふあああゝ…ぶえつくしよいつ…!!クソー」

—くしゃみすげえな！オヤジかつて！

女

「何見てんだよ」

—ひいつ…ていうか…じゃあ見せんなよ！

女

「腹減った」

—初対面のくせに何言い出すんだ、コイツは…

早くも《会わなければ良かった》という気持ちで俺はいっぱいになった。

我ながらすごい人とチャットをしていたものだ。
てか

気付けよ…俺…

女

「ねーなんか食べさせてよー」

―うわっ、ずうずうしい…

女

「そこになんかあったじゃん…ボンバーラーメン」

―ボンバーってなんだよ…聞いたことねえよ…

女

「食べさせてよーボンバー」

―俺はボンバーじゃねえ…

女

「ボンバボンバ」

―どこの民族だよ…

女

「ボンバ？」

―聞くな。

女

「いいから喰わせろー!」

―ひいつ…

俺

「わかりました、行きましょう…」

…いつの間にか敬語になった俺を尻目に、彼女は勝手に歩きだした。俺は嫌々ながらもついて行くと、公園を出てすぐの所にあったラーメン屋らしき店に辿り着いた。

看板には、顔が犬で体がマツチヨのキャラが出迎えて……

…怪しい………

しかしここで彼女に《怪しいんだけど》と言える立場ではないことに気付いていたので、彼女の指示通り黙って店内に入った。割と綺麗だが狭い店内には、俺たち2人以外の客は誰もいなかった。やがて意外と普通そうな店主が、どこからともなく現れた。

店主

「いらっさい」

女

「ボンズール」

—またかよ。店主困るぞ…

店主

「ボンズール」

—返したってばよ!!

女

「ボンバーラーメンひとつ」

「うわぁさっそく頼んでる…」

店主

「申し訳ありませんが当店はボンバーラーメンを取り扱っておりません」

「ここの店名ボンバーラーメンじゃないの!？」

女

「このやろっ」

「やめろよ…つば飛ばすのやめろよ…」

店主

「ひいっ困ります」

「そりゃそっだ。」

女

「なんかねえのかよ!ボンバーラーメンとかよ」

「ボンバーラーメンは取り扱ってないって言っただろ!」

店主

「うっうっ…つくりやいいんでしょ!ボンバーラーメン!…ぐすっ」

「泣くなよ…」

女

「お前何食っ?」

「俺っ!？」

俺

「えーと…じゃあ炒飯にしようかな…」

女

「にんにくひとつ」

「違うよ!？」

店主

「うつつ…」

「まだ泣いてるよ…」

女

「お前、スープのダシにするぞ」

「辛辣だな…」

店主

「うつつ…ひくつ…かしこまりました…ぐすつ…」

「あゝなんて言えばいいやら……」。

女

「あ…しまった…今日彼氏と約束あったんだ」

「はいいい？」

女

「悪いけど帰るね、私のボンバーラーメン食つといて、じゃあ」

「待て待て待て!帰るなよ!……帰っちゃった…」

店主

「お待たせしました、ボンバーラーメンとにんにくです」

「何これ…くさっ…納豆…?」

店主

「腐らした豆です」

―世間じゃそれを納豆とよぶんだぜ！

店主

「あゝ死にてえ」

―食べる前にそんな事言つなよ……

はあ…ほんとは今ごろ仲良くなった女の人とカップルごっこで
きたのに…

…さんざんだ…畜生……

店主

「…フーフーしてあげよつか？」
いらねえよ……！！

（後書き）

なんだかんだでこちらにも投下。最初に投稿した小説がコレなのも
なんです、これからの作品をある意味支える役目を果たしてくれ
るといいな、と思つてます。もちろんコメディ以外を中心に書いて
いるので見掛けて暇があれば読んでやってください。ではでは
h a n k y o u f o r r e a d i n g !

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8187a/>

ボンバーラーメン

2010年10月28日00時46分発行